

住宅用火災警報器維持管理等に関する調査結果について

本調査では、各地域での住宅用火災警報器（以下「住警器」という。）の設置世帯及び未設置世帯に対して調査を行いました。

調 査 票 名	対 象	回 収 票 数
住宅用火災警報器の維持管理に関するアンケート	住警器設置世帯	2,680 票
住宅用火災警報器未設置要因に関するアンケート	住警器未設置世帯	1,259 票

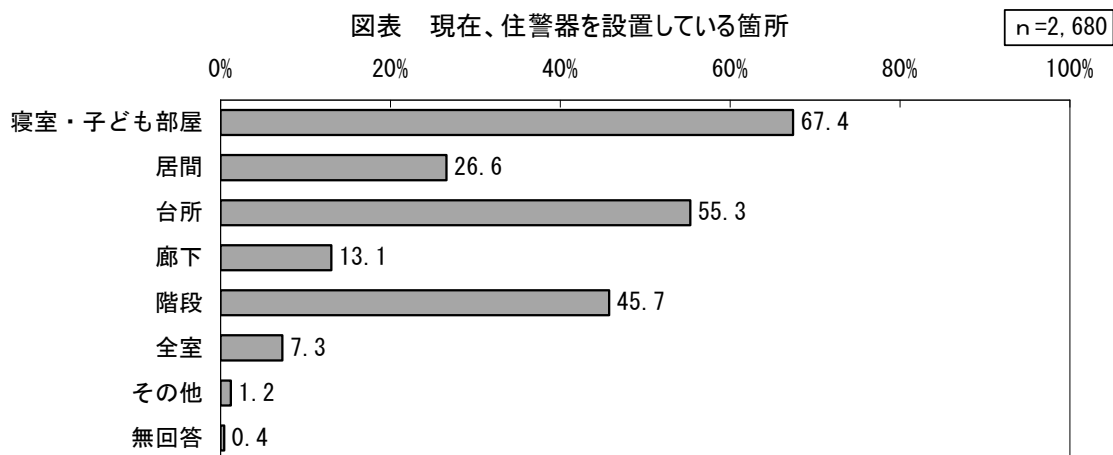
1 住宅用火災警報器の維持管理に関するアンケート（集計結果概要）

維持管理等に関する調査では、46 都道府県、2,680 世帯からの回答がありました。
調査結果概要は、つぎのとおりです。

（１）住警器の設置箇所及び鳴動について（全体・地域別）

- 住警器の主な設置箇所は「寝室・子ども部屋」、「台所」。
- 住警器が鳴った世帯は、1 割程度。

住警器の設置箇所では、「寝室・子ども部屋」（67.4%）、「台所」（55.3%）、「階段」（45.7%）が上位に挙がっており、ブロック別にみても各地域で「寝室・子ども部屋」が上位に挙がっていることから、主に設置義務となっている箇所へ設置が行われていることがわかります。



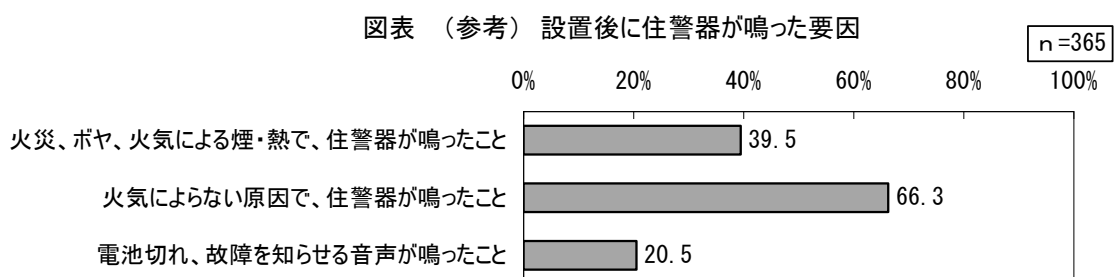
図表 現在、住警器を設置している箇所（ブロック別）

	寝室・子ども部屋	居間	台所	廊下	階段	全室	その他	無回答
北海道・東北 (n=500)	66.0%	25.2%	55.0%	17.0%	47.2%	5.4%	1.0%	0.2%
関東 (n=336)	64.3%	30.1%	53.9%	12.5%	40.8%	7.7%	0.9%	0.0%
北陸・信越 (n=204)	74.5%	32.8%	49.0%	14.7%	66.7%	3.9%	0.0%	0.5%
東海 (n=447)	55.7%	31.5%	64.2%	15.0%	37.6%	13.0%	1.8%	1.8%
近畿 (n=262)	65.3%	26.3%	64.9%	8.4%	47.7%	9.5%	2.7%	0.0%
中国 (n=328)	73.8%	21.6%	52.7%	11.9%	53.7%	4.6%	1.5%	0.3%

	寝室 子ども 部屋	居間	台所	廊下	階段	全室	その他	無回答
四国 (n=210)	74.8%	25.2%	46.2%	12.4%	37.6%	6.7%	0.5%	0.0%
九州・沖縄 (n=393)	73.8%	21.6%	50.9%	9.9%	43.0%	5.6%	1.0%	0.3%

また、設置してから、住警器が鳴ったことがある世帯は1割（13.6%）の世帯で、何らかの原因で住警器が作動したことがあるとみられ、本調査では、「火災、ボヤ、火気による煙・熱で、住警器が鳴ったこと」、「火気によらない原因で、住警器が鳴ったこと」、「電池切れ、故障を知らせる音声で鳴ったこと」の主に3つの要因について調査を実施しています。

地域別の設置後に何らかの原因で住警器が鳴動したと回答した割合は、1～2割となっており、多くの地域で「火気によらない原因で、住警器が鳴ったこと」を要因の最上位に挙げています。



（２）住警器が鳴った原因について

① 火災、ボヤ、火気による煙・熱で、住警器が鳴ったこと（回答：144件）

○ 「台所」での調理等が原因で住警器が鳴った例が最も多い。

火災、ボヤ、火気による煙・熱で、住警器が鳴ったことがあるケースは、住警器が鳴った世帯全体（n=365）の4割（39.5%）にあたります。

具体的な状況として、鳴動した住警器の74.3%は「煙式」であり、最も多いケースは、「夕方」の「台所」（93.2%）であり、原因についても主に台所での調理が主要原因となっています。また、換気扇を「回していなかった」割合は62.5%となっています。

一方で住警器が鳴った時の行動としては、同居の家族へ周知した割合は55.6%、近隣へ周知した割合は2.1%となっており、概ね住警器が鳴った際の初動として、周知の範囲は住戸内であることがうかがえます。

また、住警器が鳴った時の初期消火及び119番通報については、初期消火を実施した割合は5.6%、119番通報を行ったか割合は1.4%となっています。

図表 住警器が鳴動した時間と場所

	居間	寝室	台所	その他	無回答
回答全体 (n=144)	6.3%	2.1%	86.1%	2.8%	2.8%
早朝 (n=16)	12.5%	0.0%	81.3%	6.3%	0.0%
日中 (昼間) (n=50)	8.0%	6.0%	82.0%	4.0%	0.0%
夕方 (n=59)	5.1%	0.0%	93.2%	0.0%	1.7%
夜 (19～22時) (n=13)	0.0%	0.0%	84.6%	0.0%	15.4%
深夜 (22時以降) (n=3)	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%

② 火気によらない原因で、住警器が鳴ったこと（回答：242 件）

○ 火気によらない原因は煙や湯気のほか、誤作動による例が多い。

火気によらない原因で、住警器が鳴ったことがあるケースは、住警器が鳴ったことがある世帯（n=365）の 7 割（66.3%）にあたります。

また、住警器が鳴った原因では、「魚を焼いたときの煙」（35.5%）、「殺虫剤（バルサン等）の散布」（15.7%）のほか、その他意見として「（炊飯器、湯沸かし器、電気ポット）湯気」（31 件）、「故障・誤作動」（14 件）が主な回答として挙がっています。

一方で住警器が鳴った時の行動としては、「どの部屋で鳴っているか確認した」と回答した割合が 43.4%と最も多く、次いで「周辺の状態を確認した」（36.6%）、「危険を感じ、同居の家族に知らせた」（7.9%）の順に上位に挙がっているほか、その他意見として「窓を開けて換気」（16.2%）、「住警器を止めた（電源を切った）」（5.4%）などが、主な回答として挙がっています。

③ 電池切れ、故障を知らせる音声で鳴ったこと（回答：75 件）

○ 電池切れ、故障を知らせる音声で鳴ったことがあるケースは、2 割程度。

電池切れ、故障を知らせる音声で鳴ったことがあるケースは、住警器が鳴ったことがある世帯（n=365）の 2 割（20.5%）にあたり、その対処としては、「電池を交換した」（54.7%）、「故障のため本体を交換した」（12.0%）、「そのまま放置している」（4.0%）となっています。

また、電池や本体を交換する際は、その他意見として「自分」（13.3%）を最上位に挙げており、電池や本体を交換する際は“自分で”行う場合が最も多いとみられます。

なお、協力者としては「婦人（女性）防火クラブ」（10.7%）、「友人・知人」（9.3%）、「家族」（8.0%）、「消防団」（5.3%）が上位に挙がっています。

（3）住警器が鳴らなかった時の状況について

○ 火災になりそうな状況の際に、住警器が鳴らなかった例はほとんどみられない。

住警器を設置した箇所で、火災になりそうな状況やボヤになったときに、住警器が鳴らなかった状況はほとんどみられず、いずれも 1%未満となっています。

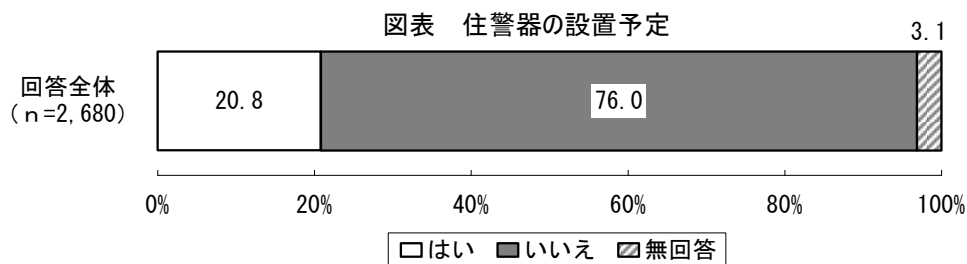
また、こうした状況のあった世帯（n=17）の対応として、電池や本体の交換、販売店やメーカーへの問い合わせを行っています。

（4）住警器の設置・維持管理等について

① 今後の設置予定

○ 今後の追加設置意向は 2 割。箇所は「寝室・子ども部屋」、「台所」、「階段」。

今後の住警器の追加設置意向は 2 割（20.8%）となっており、今後の設置する予定箇所として、「寝室・子ども部屋」（34.8%）、「台所」（28.1%）、「階段」（16.7%）を上位に挙げています。

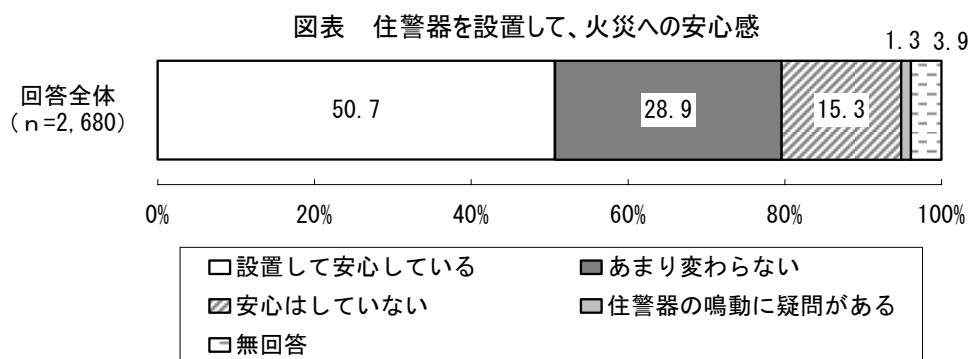


② 火災への安心感

○ 設置した世帯の半数以上が設置による安心感を得ている。

住警器を設置してからの火災への安心感について、設置した世帯の半数以上（50.7%）が「設置して安心している」と回答しています。

また、「あまり変わらない」と回答した割合は28.9%、「安心はしていない」と回答した割合は15.3%となっています。

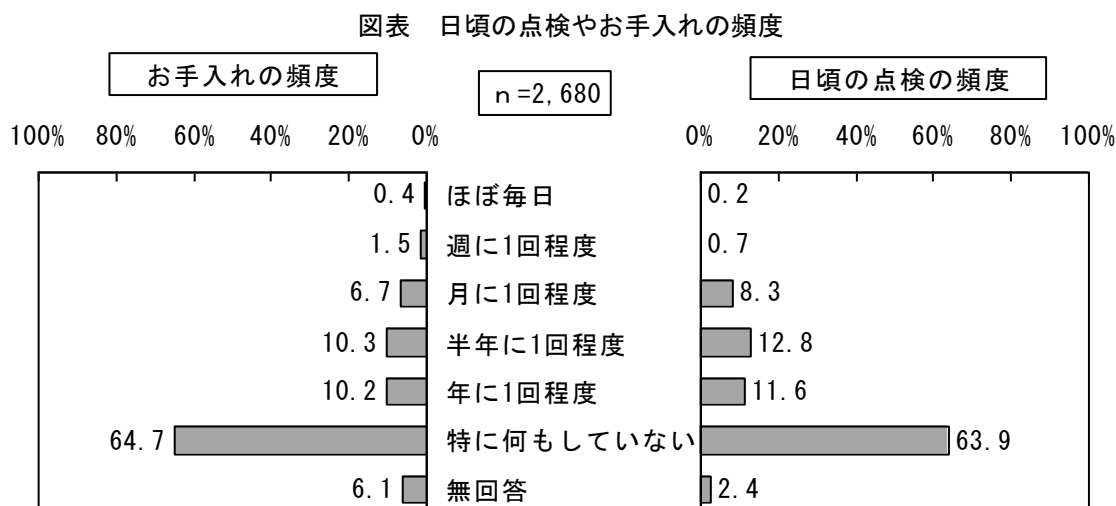


③ 維持管理（日頃の点検やお手入れの頻度）

○ 日頃の点検やお手入れを「特に何もしていない」と回答した世帯は6割以上。

住警器のお手入れや日頃の点検については、「半年に1回程度」、「年に1回程度」がそれぞれ1割程度を占め、お手入れについては、64.7%、日頃の点検については63.9%の世帯が「特に何もしていない」と回答しており、各地域においても、お手入れや日頃の点検の頻度は、「特に何もしていない」と回答した割合が6～7割を占めています。

また、住警器の維持管理については、意見として、点検や手入れの必要性や方法を“知らない”といった意見が多く挙がっていることから、正しい知識の周知を図る必要があります。



図表 （参考）日頃の点検やお手入れの頻度（ブロック別：「特に何もしていない」割合）

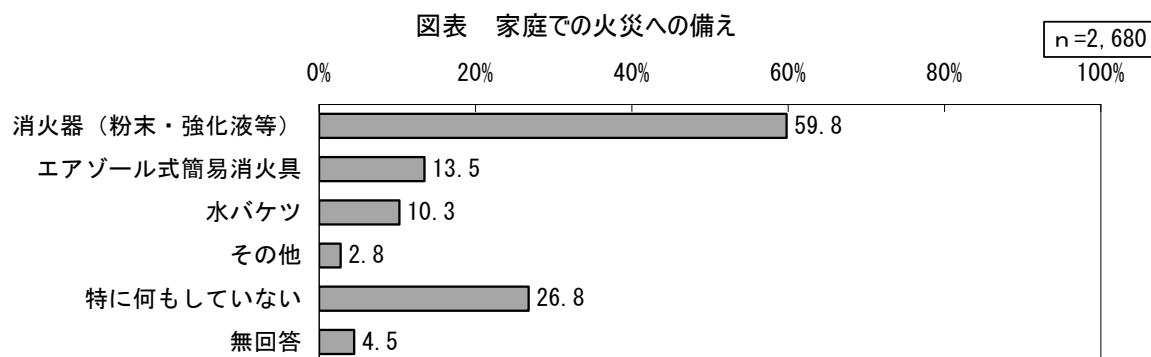
	お手入れの頻度 （「特に何もしていない」割合）	日頃の点検の頻度 （「特に何もしていない」割合）
北海道・東北（n=500）	56.0%	56.8%
関東（n=336）	59.5%	58.3%
北陸・信越（n=204）	69.1%	71.1%
東海（n=447）	68.5%	63.3%
近畿（n=262）	66.4%	67.6%
中国（n=328）	60.4%	62.8%
四国（n=210）	66.7%	74.3%
九州・沖縄（n=393）	69.5%	73.0%

（５）家庭での火災への備えについて

○ 「消火器（粉末・強化液等）」（59.8%）をはじめ、家庭での火災に備えている世帯はおよそ7割。

家庭での火災に備えとして、「消火器（粉末・強化液等）」（59.8%）、「エアゾール式簡易消火具」（13.5%）、「水バケツ」（10.3%）を上位に挙げています。

一方で、「特に何もしていない」と回答した割合は26.8%であり、7割近く（68.7%）の世帯で火災に備えています。



なお、「消火器（粉末・強化液等）」を備えている世帯（n=1,603）の国家検定マークが付いている割合は96.1%、「エアゾール式簡易消火具」を備えている世帯（n=361）にNSマークが付いている割合は91.4%となっています。

2. 未設置の要因に関する調査結果概要

未設置の要因に関する調査では、46 都道府県、1,295 世帯からの回答がありました。
調査結果概要は、つぎのとおりです。

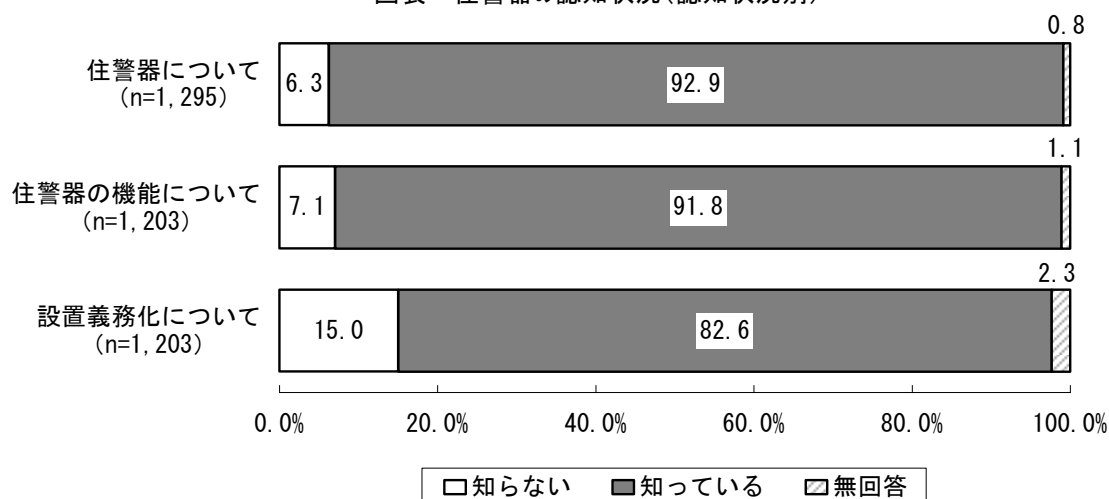
(1) 住警器の機能や制度の認知について（全体・地域別）

○ 住警器を設置していない世帯にも概ね住警器の機能や制度については認知されている。

住警器を設置していない世帯（n=1,295）のうち、「おおよそ知っている」（59.3%）、「よく知っている」（33.6%）を合わせた 9 割（92.9%）は、住警器について“知っている”と回答しており、機能についても“知っている”と回答した世帯（n=1,203）の 9 割（91.8%）は、住警器の機能についても“知っている”と回答しています。

一方で、住宅への設置が義務化されたことについては、「知らない」と回答した割合は 15.0%、「知っている」と回答した割合は 82.6%となっており、ブロック別の調査結果をみても、住警器の認知状況について、大きな地域差はみられないことから、概ね住警器の機能や制度については認知されていることがうかがえます。

図表 住警器の認知状況（認知状況別）



図表（参考）住警器の機能や義務化の認知状況（ブロック別：「知っている」割合）

	住警器の機能について （「知っている」割合）	設置義務化について （「知っている」割合）
北海道・東北（n=214）	90.7%	84.1%
関東（n=158）	88.6%	76.6%
北陸・信越（n=100）	85.0%	87.0%
東海（n=145）	93.1%	85.5%
近畿（n=107）	93.5%	83.2%
中国（n=178）	96.1%	87.1%
四国（n=116）	88.8%	80.2%
九州・沖縄（n=185）	95.7%	78.4%

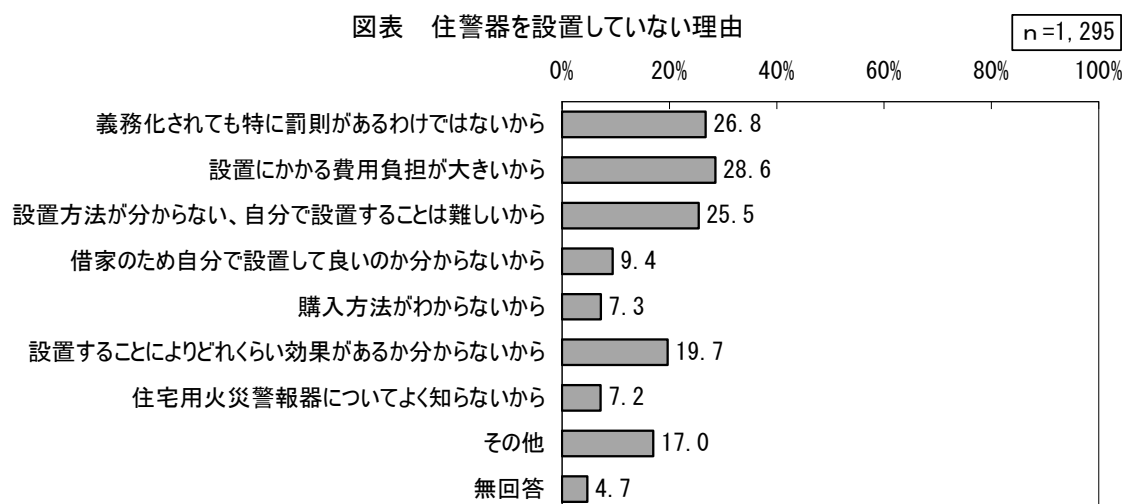
※「知っている」＝「おおよそ知っている」、「よく知っている」の合計

(2) 住警器を設置していないことについて

① 未設置の理由

○ 住警器を設置していない理由として、“費用負担”、“罰則のないこと”、“設置の困難”を上位に挙げている。

住警器を設置していない理由としては、「設置にかかる費用負担が大きいから」(28.6)、「義務化されても特に罰則があるわけではないから」(26.8%)、「設置方法が分からない、自分で設置することは難しいから」(25.5%)の順に上位に挙がっています。

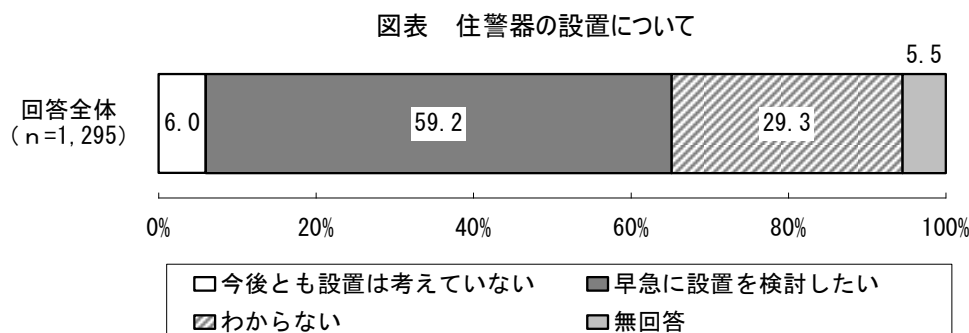


なお、未設置の要因の上位である“費用負担”、“罰則のないこと”について、「設置にかかる費用負担が大きいから」と回答した世帯 (n=370) の最も妥当と考える住警器費用は、「3,000円未満」(78.9%)となっており、また、「義務化されても特に罰則があるわけではないから」と回答した世帯 (n=347) に、義務違反に対する罰則等が導入された場合、住警器の設置を「検討する」と回答した割合は90.5%となっています。

② 今後の設置予定

○ 今後の追加設置意向は6割。箇所は「寝室・子ども部屋」、「台所」、「階段」。

今後の住警器の設置意向について、「今後とも設置は考えていない」と回答した割合は6.0%、「早急に設置を検討したい」と回答した割合は59.2%、「わからない」と回答した割合は29.3%となっています。

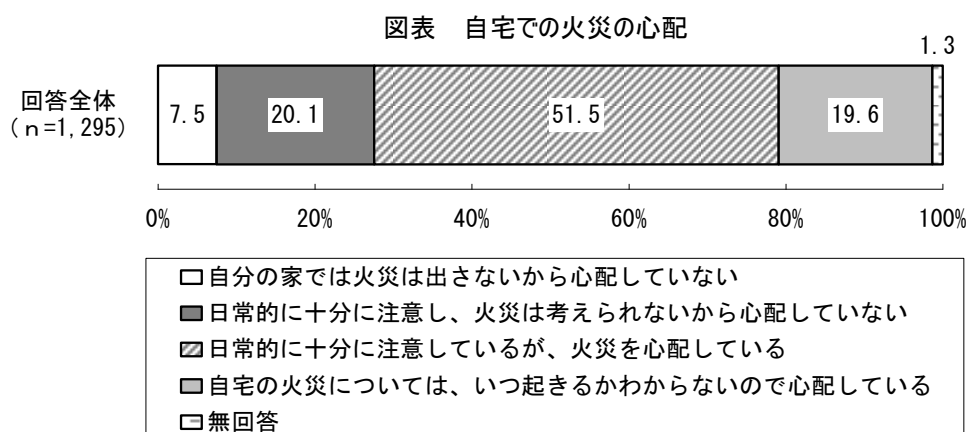


また、「早急に設置を検討したい」と回答した世帯（n=766）の今後の住警器を設置する予定箇所は、「寝室・子ども部屋」（76.1%）、「台所」（51.7%）、「階段」（32.4%）が上位に挙がっています。

（３）火災への心配

○ 未設置世帯の７割で“火災を心配している”と回答。

火災の心配について、「日常的に十分に注意しているが、火災を心配している」（51.5%）、「自宅の火災については、いつ起きるかわからないので心配している」（19.6%）を合わせた71.1%の世帯では、“火災を心配している”と回答しています。

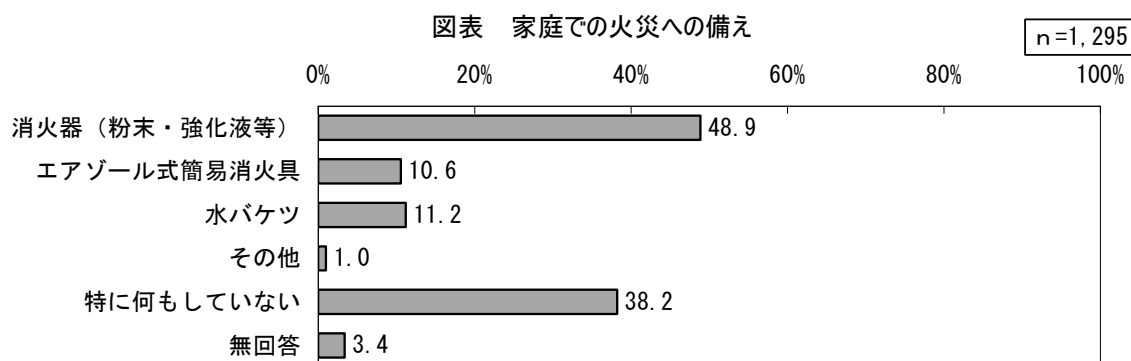


（４）家庭での火災への備えについて

○ 「消火器（粉末・強化液等）」（48.9%）をはじめ、家庭での火災に備えている世帯はおよそ６割。

家庭での火災に備えとして、「消火器（粉末・強化液等）」（48.9%）、「水バケツ」（11.2%）、「エアゾール式簡易消火具」（10.6%）を上位に挙げています。

一方で、「特に何もしていない」と回答した割合は38.2%であり、６割近く（58.4%）の世帯で火災に備えています。



なお、「消火器（粉末・強化液等）」を備えている世帯（n=633）の国家検定マークが付いている割合は88.2%、「エアゾール式簡易消火具」を備えている世帯（n=137）にNSマークが付いている割合は83.9%となっています。

3. 今後の住警器の設置促進及び防火対策の推進に向けて

(1) 今後の適切な維持管理について

○ 適切な維持管理にむけた具体的な維持管理方法についての情報が求められている。

維持管理等に関する調査での集計・分析結果から、手入れの必要性や定期的な点検に関しては、各地域で「特に何もしていない」と回答する割合が最も多くなっており、本調査を通じてその必要性を知った住民の方も多くみられることから、今後の適切な維持管理に向けた普及啓発活動が求められます。

また、より具体的な維持管理方法についての情報が求められていることから、定期的な手入れや点検を啓発するだけでなく、住警器の清掃方法や目安となる点検時期などを示す必要も考えられます。

なお、今後の高齢化の進行とともに、“高所にある住警器の点検、清掃方法”については、日常的な活動を通じて支援体制を構築することも重要とみられます。

(2) 未設置世帯への効果的な設置促進について

○ 設置方法、購入場所や住警器の機能、効果について情報等の周知。

未設置世帯への住警器に関する普及啓発及び設置促進について、住警器の機能や義務化については、地域差もなく概ね全国的に認知されているものの、設置方法や購入場所、住警器の機能や効果について情報を求める意見が多く挙がっており、こうした情報について周知を図ることが、未設置世帯への効果的な設置促進につながるものと考えられます。

(3) 今後の住宅防火対策の推進

○ 防火意識の高揚とともに、正しい防火製品の選択にむけた取り組みが求められる。

防火意識の高まりは、家庭での防火に対する備えの充実につながるものと考えられるため、引き続き地域での防火意識の啓発は重要と考えられます。

また、正しい製品の選択を促すためにも、国家検定マークや NS マークの付いた製品の購入を促すために、情報提供をはじめ共同購入などの機会を促進することで、安全安心な防火への備えを図ることができるものと思われます。